



特集 7

あなたが住む街の電子自治体への取組 その 2

2.4 本格的なクラウドサービスを利用した基幹業務システムの実現 (広島県大竹市)

〔大竹市の紹介〕

大竹市は広島県の西端に位置する、人口28,787人、12,648世帯（平成23年11月1日現在）の市です。古代から当時の都と九州・太宰府を結ぶ古代山陽道の安芸の国の終駅として、また交通の要所として栄えてきました。昭和29年9月1日に大竹市として市制を施行。その後、パルプ、化学繊維、石油化学等の大企業を誘致し、瀬戸内地域で有数の臨海工業地区に発展しています。これら基幹産業のパルプ、化学繊維、石油化学等は一事業所当たりの人数、出荷額は県内市で第1位となっています。気象は、瀬戸内式気候に属し、年間を通じて温暖ですが、比較的雨量が多いです。また、地形は、沿岸部の市街地を除いては、平地が少なく、海岸線近くまで山々の急傾斜が迫っています。

現在、平成23年3月に策定した第五次総合計画（わがまちプラン）に基づき、「地域資源を活かしみんなでつくるまちづくり」と「効率的な行財政運営で実りの多いまちづくり」を基本理念に、「笑顔・元気 かがやく大竹」の実現を目指しています。



出典：大竹市

〔次期基幹業務システムの検討について〕

大竹市の現行業務システムは、庁舎内に設置したサーバに業務パッケージを導入し、システムを所有する形態（クライアントサーバシステム）です。

現行システムのサポート停止や平成24年度に予定されている住民基本台帳法の改正に対応するため、次期基幹業務システムの導入が必要となり、平成23年2月より検討を開始しました。システムの選定にあたっては、システムの形態にはこだわらず、次の観点から総合的に判断することとしました。

1. パッケージシステムの導入により、経費の削減を図る。
2. 法令等の改正に速やかに対応でき、安定した運用が可能なシステムを構築する。
3. 業務の効率化が図られ、市民サービスの向上につながるシステムを構築する。

検討の結果、クラウドサービスによる基幹業務システムを導入することを決定し、現在、システム導入作業を進めています。

〔クラウドサービスの概要〕

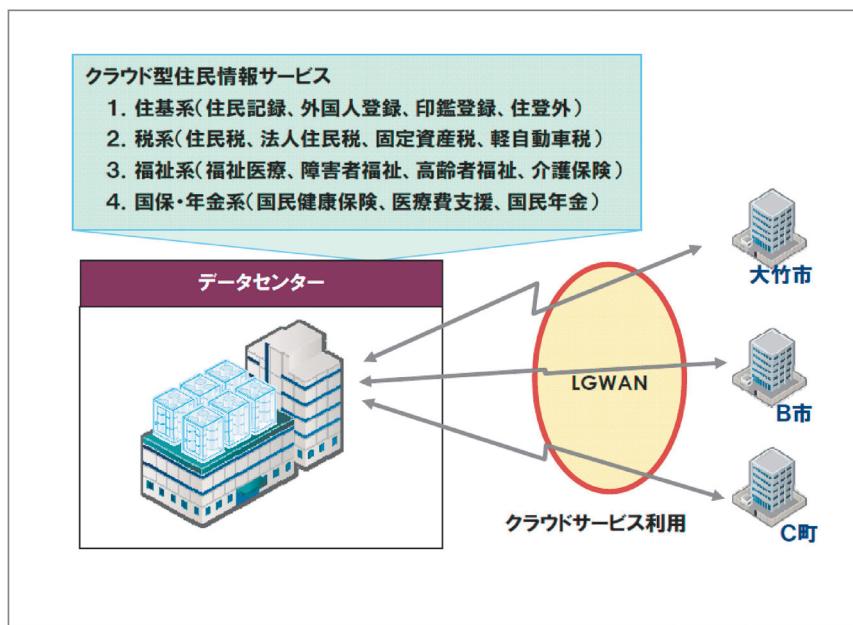
今回、大竹市が採用した次期基幹業務システムは、多数の導入実績をもつ、地域情報プラットフォーム標準仕様に準拠した自治体業務システム・パッケージを、最新のクラウドコンピューティング技術を用いた基盤上でマルチテナント化したクラウドサービスで、県外のデータセンターと大竹市間を総合行政ネットワーク（LGWAN）で接続して利用します。

クラウドサービスで提供される自治体業務システム・パッケージは、住基関連、税務関連、国保年金、介護保険、福祉関連の業務であり、これらは地域情報プラットフォーム標準仕様に準拠した複数ベンダのパッケージ製品をほぼノンカスタマイズで使用する予定です。

また、クラウドサービスのインフラには、第三者機関によるリスク評価でも「極めて安全」との評価を得ている最新

2 先進的な事例紹介

銳のデータセンターで稼動しているクラウド基盤(総務省・自治体クラウド開発実証事業で採用)と、全国の地方自治体を相互に接続する行政専用の総合行政ネットワーク(LGWAN)が採用されていることから、信頼性が高く、強固なセキュリティを兼ね備えたサービスを利用することができます。



出典：日本ユニシス

〔クラウドサービスに期待する効果と今後に向けて〕

従来の基幹業務システムは、庁舎内に設置したサーバに業務パッケージを導入し、システムを所有する形態でしたが、クラウドサービスを利用する形態に転換することにより、以下の効果を期待しています。

- ・基幹業務システムの構築、運用に係るコストが削減できる。
- ・業務の効率化による職員の業務負荷が軽減できる。
- ・大規模な災害が発生した場合でも、業務の継続が可能となる。

今後、クラウドサービスを活用した市民サービスの向上にも取り組み、住みやすいまちづくりの実現に取り組んでいきます。

(問い合わせ先)

大竹市企画財政課広報統計係

TEL:0827-59-2124

e-mail:kikaku@city.otake.hiroshima.jp